

1 番 千葉泰彦です。通告に基づきまして一般質問を 2 点行います。

1 企業版ふるさと納税について

地方公共団体に於ける財政状況につきましては周知の事実と思われまますので、定量的な説明は割愛し私の経験から課題意識をお伝えします。

私自身はこれまで10道県、20市町村で被災者支援における活動調整を行ってきました。被災自治体と共に県域、市町村域、集落毎に制度の弾力運用、民間による支援活動との調整を行うというものです。

20市町村の多くは、財政規模が縮小傾向にある一方で社会保障、公共施設の維持管理、更にコロナ、災害などアクシデントも含め対応課題は増加する状況で、地域内外資源の巻き込み、活性化に苦慮しておりました。

逡減する歳入で多くの課題を解決しなければならない状況下においてSDGsにも謳われている資源循環、持続可能性をどのように担保していくのか。資源の確保育成と効率の改善は本町においても大きな課題であると認識しております。

そこで、本町に於ける外部資源を積極的に活用しようとする取り組みの一つ、企業版ふるさと納税についてお尋ねします。これまでの実績、課題と今後の戦略について地域再生計画内、5 - 2 ②事業の内容、並びに5 - 2 ④寄付の金額の目安、を前提にしてご説明下さい。また他の取り組みへ期待できる波及効果があれば併せてご教示下さい。

2 公共交通網の構築について

20市町村における被災者支援調整で緊急期の対応が落ち着くにつれ支援課題となることの一つに移動支援があります。特に水害では車両の流出が多く中山間地のみならず都市部でも発生します。

昨今本町に於いても、加齢による免許返納や災害によるコミュニティーの変化により各種手続き、通院、買い物不自由になったとの声を伺います。同じ町内であっても地域ごとに地理的条件、既存資源、路線バスのインパクトなど課題、背景も多様です。

一方、大川地区ではコミュニティーバスの取り組みや、商工会でも見守りを兼ねる小売り事業者への支援を講じ

ていると伺います。

改めて公共交通網の構築についてお尋ねします。岩泉町未来づくりプランに示されているデマンド交通地域の目標値に対するその後の進捗、課題と展開の見通しをご説明下さい。「公共」交通網とはありますが共助を促進する取り組みもあれば併せてご教示ください。

以上で本席からの質問を終わります。